



第26回日本心不全学会学術集会

知と心かよわすその先へ～人々のハピネスを求めて～

シンポジウム

01. HFpEF の新しい診断

座長：坂田 泰史 (大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学)
塩島 一郎 (関西医科大学 内科学第二講座)

HFpEF は現時点では除外診断である。よって、「新しい診断」とは、個々の症例でどのように HFpEF の原因・増悪因子を突き止め、そこに介入するか、ということを含まなければいけない。概念的なものではなく実際臨床で介入可能な「原因・増悪因子」に対する診断法そして介入法を勉強したい。

02. HFrEF の治療戦略 (薬物)

座長：筒井 裕之 (九州大学大学院医学研究院 循環器内科学)
猪又 孝元 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科)

HFrEF では予後改善をもたらす薬剤が次々と登場したが、選択肢が加わるほど現場での疑問が増すのも事実である。ここでは、個々の薬剤特性に留まらず、HFrEF における様々な臨床シナリオという視点でその治療戦略を議論する。

03. HFrEF の治療戦略 (非薬物)

座長：澤 芳樹 (大阪大学大学院医学系研究科)
百村 伸一 (さいたま市民医療センター)

最近になり HFrEF にたいする複数の新しい治療薬が我が国でも使用できるようになったが、薬物療法には限界があり非薬物療法とのコンビネーションが必要となる。本シンポジウムでは再生医療やデバイス治療など HFrEF に対する非薬物療法の現状と今後についての議論を深めたい。

04. 心不全に潜む冠微小循環障害

座長：赤阪 隆史 (和歌山県立医科大学 循環器内科)
上村 史朗 (川崎医科大学 循環器内科)

不全心には基礎心疾患を問わず冠微小循環の変化を伴うが、心不全の病態と微小循環障害の関連、治療に伴う変化などには不明な点が多い。演者には冠微小循環の最新の評価法と心不全における基礎的、臨床的なエビデンスを提示していただき、議論を深めたい。



第26回日本心不全学会学術集会

知と心かよわすその先へ～人々のハピネスを求めて～

05. 心不全に合併した心房細動を攻略する

座長：池田 隆徳（東邦大学大学院医学研究科 循環器内科学）

草野 研吾（国立循環器病研究センター 心臓血管内科）

心房細動と心不全はともに頻度の高い疾患で共存することも多い。心房細動の治療においては薬物だけでなく、カテーテルアブレーションもある。一方、心不全の治療においては、近年では新しい複数の薬物が使用できるようになっている。本シンポジウムでは両疾患を合併した患者の治療戦略について再考する。

06. SGLT-2 はなぜ効くのか？

【公募なし】

座長：室原 豊明（名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学）

西山 成（香川大学医学部 薬理学）

非糖尿病も含めた心不全患者に対する SGLT2 阻害薬の有用性が明らかとなってきたが、その作用機序は未だ全く不明である。そこで本セッションでは、様々な仮説に基づいた研究を一堂に集め、SGLT2 阻害薬の謎に迫る。

07. 肺高血圧治療の最前線

座長：瀧原 圭子（大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター）

川上 崇史（慶應義塾大学医学部 循環器内科）

この10年で肺高血圧症の診断および治療は著しい進歩を遂げ、現在では長期生存が可能となっています。1群のPAHでは、様々な系統に作用する薬剤を用いた多剤併用療法の有効性が示されるとともに、基礎研究においても多くの知見が蓄積しており、さらなる予後改善が期待されます。4群のCTEPHの診療においては、バルーン肺動脈形成術やグアニル酸シクラーゼ刺激薬が選択枝に追加され、治療成績が向上しています。本邦の肺高血圧症の研究及び診療レベルは世界をリードしており、本セッションが肺高血圧症のさらなる生命予後・QOL改善へ向けて実りある議論ができる場になることを期待しています。



第26回日本心不全学会学術集会

知と心かよわすその先へ～人々のハピネスを求めて～

08. 心筋炎 Up to date

座長： 奥村 貴裕（名古屋大学医学部附属病院 重症心不全治療センター／循環器内科）
尾上 健児（奈良県立医科大学 循環器内科）

心筋炎は比較的稀な疾患であるが、無症候性のもものから劇症型まで幅広い重症度を呈する。COVID-19 ワクチン関連心筋炎もあり社会的な注目度も上がっている。本セッションではその病態・機序や病理所見に focus し本疾患の本態に迫ると共にその対応法を議論するため、症例報告から研究報告に至るまで皆様からの演題を募集します。

09. 心不全診療につながる基礎研究

座長： 小室 一成（東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学）
家田 真樹（筑波大学医学医療系 循環器内科）

近年、心不全の病態解明や新規治療開発を目指して、iPS細胞や遺伝子改変動物を用いた病態モデル研究、ヒト検体に対するオミックス解析など様々なアプローチから研究が進展している。本セッションでは心不全診療につながる基礎研究と題して幅広い領域からの応募を期待する。

10. ガイドラインから学ぶ心不全緩和ケア

座長： 安齊 俊久（北海道大学大学院医学研究院 循環病態内科学教室）
福本 義弘（久留米大学医学部 心臓・血管内科）

「循環器疾患における緩和ケアについての提言」において推奨されている症状が出現した早期の段階からの多職種協働チームによる全人的苦痛のアセスメントと対処法に関して、実際の症例提示を含めながら議論したい。

11. 在宅医療での心不全診療の取り組み

座長： 木原 康樹（神戸市立医療センター中央市民病院）
眞茅 みゆき（北里大学 看護学部）

これからの心不全医療では、かかりつけ実地医家や訪問看護などが地域で形成する診療体制が主体的な役割を果たし、個別性のある、慢性期から終末期までの患者の人生を考えた在宅医療が求められる。本セッションでは、医師およびメディカルスタッフによる心不全の在宅医療に関する多様な取り組みについて報告いただき、今後の心不全診療における在宅医療のあり方を議論したい。



第26回日本心不全学会学術集会

知と心かよわすその先へ～人々のハピネスを求めて～

12. 三尖弁逆流と右心不全

座長： 大倉 宏之（岐阜大学大学院医学系研究科 循環器内科学）

波多野 将（東京大学医学部附属病院 高度心不全治療センター）

三尖弁は「忘れられた弁」ともいわれ、これまであまり注目されてこなかった。近年、新しいカテーテル治療の登場とともに、三尖弁逆流に対する関心が高まっている。本セッションでは右心不全の原因としての三尖弁逆流について議論を深めたい。

13. 貧血はなぜ悪いのか？

【公募なし】

座長： 吉村 道博（東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科）

泉家 康宏（大阪市立大学 循環器内科）

貧血は心不全患者の独立した予後規定因子である。しかしながらどのように介入すべきか？エビデンスは十分ではない。本セッションでは心不全に合併する貧血のメカニズムから見た至適介入手段をエキスパートの先生方と討論したい。

14. たこつぼ症候群の最前線

座長： 矢野 雅文（山口大学大学院医学系研究科 器官病態内科学）

大倉 宏之（岐阜大学大学院医学系研究科 循環器内科学）

たこつぼ症候群は、1990年に我が国で初めて報告されて以来約30年が経過し、臨床像は明らかとなったが、いまだその発生機序には不明な点が多く治療は対症療法に留まっている。本シンポジウムでは病態や治療などに関する最新の研究成果を発表して頂き本症候群に対する理解を深めたい。

15. ここまで出来る画像診断

座長： 泉 知里（国立循環器病研究センター 心臓血管内科）

土肥 薫（三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学）

近年、心不全患者の高齢化や併存疾患の増加、更には新たな疾患概念の提唱などにより、原因疾患の重複化や病態の多様化が顕著である。そのため、複数の画像診断法を適切に組み合わせ、診断、治療、予後予測に活用することが求められる。本セッションでは、心不全診療における心エコー・CT・MRI・核医学検査、更にはマルチモダリティイメージングの進化と活用法に対する最新の知見を共有したい。



第26回日本心不全学会学術集会

知と心かよわすその先へ～人々のハピネスを求めて～

16. ゲノム情報を活かした心筋症医療

座長： 朝野 仁裕（大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学）

山口 修（愛媛大学大学院医学系研究科 循環器・呼吸器・腎高血圧内科）

WES/WGS 解析とそのバイオインフォマティクスによる情報解析技術の進歩はゲノム情報に基づいた医療の可能性を格段に進歩させた。循環器分野でも心筋症や不整脈の診断や原因解明が進み、治療に向けた取り組みが進みつつある。臨床応用を見据えた将来のゲノム医療について討議したい。

17. CTRCD の予防と治療

座長： 佐瀬 一洋（順天堂大学大学院医学研究科 総合診療科学）

赤澤 宏（東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学）

がん治療関連心機能障害 CTRCD に対しては、リスクの層別化から、心機能障害の早期検出と治療、がん治療後の長期間のモニタリングと専門性の高い管理が求められる。CTRCD のベストマネジメントとは何か、最新の知見を踏まえながら議論を深めたい。

18. 心筋症を識る

【公募なし】

座長： 吉川 勉（榊原記念病院）

北岡 裕章（高知大学 老年病・循環器内科学）

心筋症の概念は時代とともに変化してきたが、循環器病学における重要性は益々高まっている。本シンポジウムでは、心筋症の病因や病態解明における最新の知見について議論したい。

19. ACHD の今と未来

座長： 上村 秀樹（奈良県立医科大学 先天性心疾患センター）

三谷 義英（三重大学医学部附属病院 周産母子センター）

ACHD の修復術後右心不全（肺心室不全）に焦点を絞って、診断・対処のコンセンサスを求める。

1) 診断、2) 予後、3) カテーテル治療（不整脈・弁置換）、4) 治療後の改善



第26回日本心不全学会学術集会

知と心かよわすその先へ～人々のハピネスを求めて～

20. 心不全診療における心臓リハビリテーションの有用性

座長： 井澤 英夫（藤田医科大学医学部 循環器内科学）

宮脇 郁子（神戸大学大学院 保健学研究科）

心不全診療において多職種が参加する包括的心臓リハビリテーションプログラムが多くの医療機関で実施されるようになってきています。医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士などそれぞれの立場から心リハの有用性を検証し、よりよいプログラムを作るヒントが得られるセッションになればと考えています。多職種からの応募を期待しています。